

3

てきか
摘果

作業の目的

葉の枚数に対して実の数が多すぎると、1つの実に分配される養分が少なくなり、果実が小玉になり、品質も低下します。

「摘果」は、大玉で糖度の高い果実を生産するために、果実が生長する前に余分な実を摘み取る作業です。

作業時期 5月中旬から6月上旬

生長の早い果実が小指の先端程度の大きさになり、自然に落下する小さい果実と区別できるようになった頃から作業を始めます。

作業の時期が早いほど、残された果実の肥大が良くなります。



摘果作業を始める時期の果実の大きさ

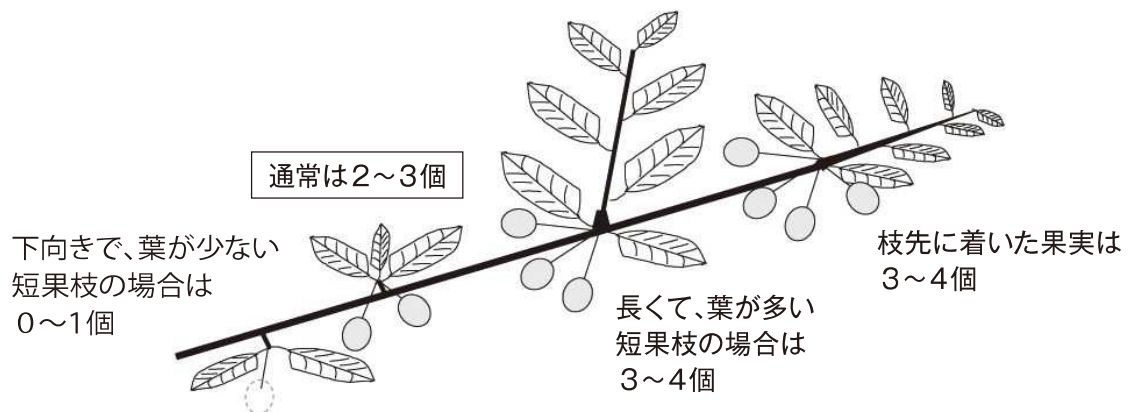
作業方法

摘果作業の方法には、①ハサミを使う方法、②手で摘み取る方法などがあります。

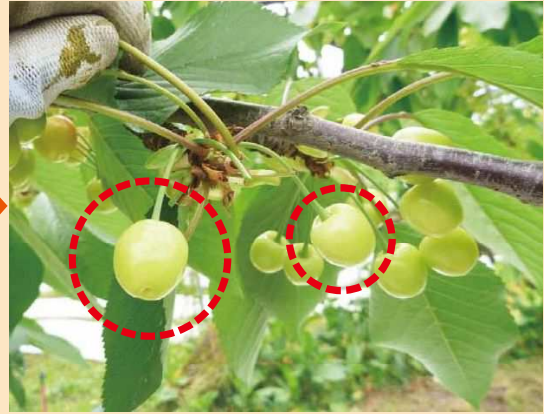
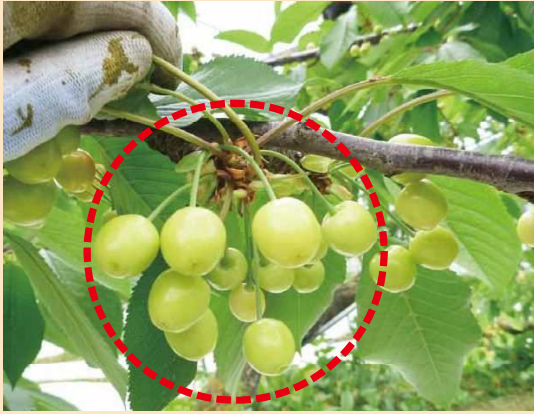
ア 作業は短果枝ごとに行います。

イ 1つの短果枝に着いた果実の中から、残す果実を選びます。

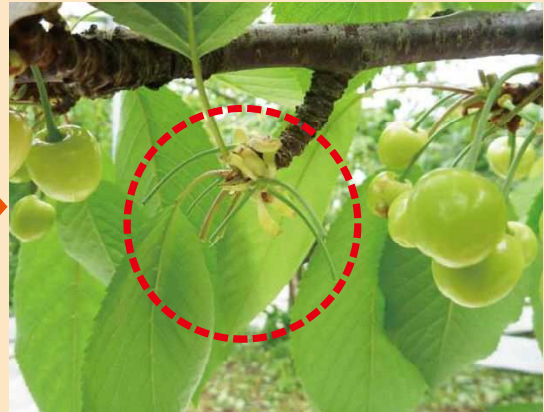
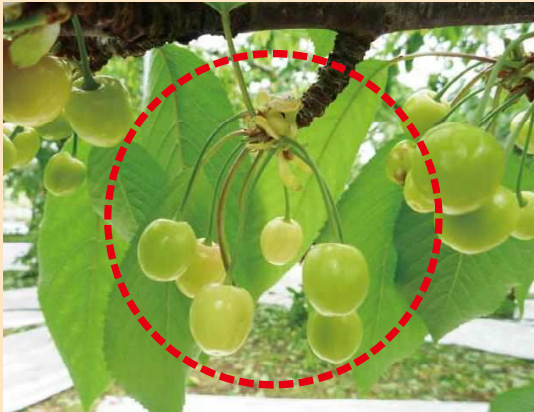
通常2～3個の果実を残しますが、残す数は品種、果実が着いている場所などにより異なります。残す果実は、軸が太く、大きな果実を選び、枝に接触している果実や双子果、病害果は摘み取ります。



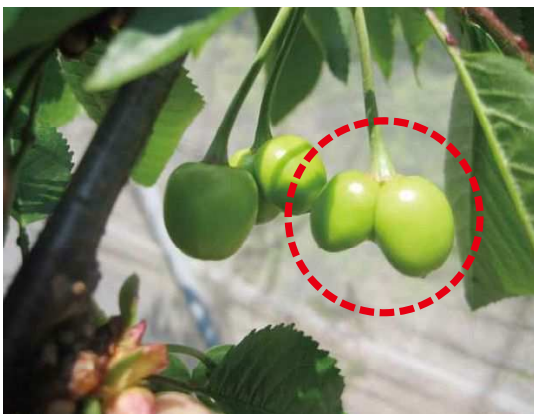
短果枝の位置による残す果実の数の違い



大きい葉が多く、横向きや上向き
の短果枝の場合 → 2~3個残す



全体として着果量が多い樹で、葉が少なく、
下向きの短果枝の場合 → 0~1個残す

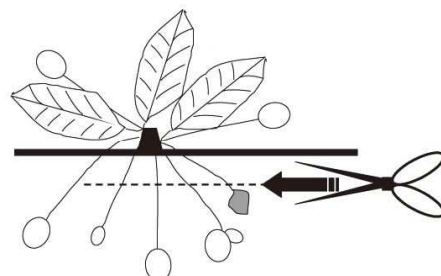


摘み取る双子果



摘み取る病害果

ウ 横からハサミを入れて、残す果実を除き、軸の途中から切り落とします。



摘果作業前と作業後の比較(下から見た写真)

